

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみずほの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県雲仙市瑞穂町古部乙1392-1
記入者名 (管理者)	管理者 平辻 心
記入日	平成19年 9月20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>尊厳のある暮らし 生活の質の向上 認知症の状態の改善・進行の予防</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>見易い箇所へ掲示し、常に目を通し理念に基づいた処遇を実施している。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>今後、広報紙等を活用し、家族・地域等幅広く理念の浸透を図ることとする。</p>
	<p>理念に関しては職員間で共有してはいるものの、地域への浸透という部分では不十分と思われる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>今後、より積極的に施設外の行事等に参加するよう心掛ける。</p>
	<p>施設の立地条件の問題上、近隣住民との日常的な会話等はできていない。しかし、併設特養も含め、地域住民の方々をお呼びしての交流を図っている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>今後も納涼祭等、施設内で開催される行事において交流を深め、地域の行事にも可能な限り参加させて頂くよう心掛ける。</p>
	<p>瑞穂町主催の文化作品展への出品、地域子供会・老人会等をお呼びしての納涼祭開催、自治会奉納踊り等、地域の方々との交流を図っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	広域市町村圏組合主催の「家族介護教室」事業への応募を実施。地域の方々に対し、介護技術方法・介護技術等の実習と講演を開催する予定。		地域の方々への介護教室の実施。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前実施した自己評価・外部評価等で、要改善と指摘を受けた項目に関しては、具体的に改善策を見出すよう努めている。		地域の方々との交流・介護教室等の実施。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で直に頂いた意見に関しては、その後のサービス向上に活用すべく、心掛けている。		2ヵ月に1度の開催という頻度では会議を実施できていない状況の為、今後できるだけ多く会議を開催したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設特養の絡みもあり、市町の担当者との連携は密に実施している。今後は広域市町村圏組合との連携の下、家族介護教室の開催を予定している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内に掲示し、権利擁護事業・成年後見制度を学び、職員間での相互理解に努めている。また、必要な場合はそれらの活用を実施することができるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関係資料を作成し、施設内にて勉強会を実施、存分に注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者様本人及び御家族に、入所の際充分に書面にて説明を実施し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置、第三者委員の委嘱を実施している。また、日常の会話の中で意見等を傾聴するよう心掛けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1ヵ月に1度御家族様宛に報告書を送付。面会時に健康状態や日常生活の報告をさせて頂いている。健康状態に変化があった際は、電話にて報告を実施し連携を図っている。また、3ヵ月に1度発行する広報紙にも掲載し、随時報告に努めている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族・全職員出席の下、家族会を開催し、意見等をお聞きしている。また、重要事項説明書における苦情相談等における文書の明記を実施している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月全体会議を開催し、全職員出席の下、意見や提案を聞くように心掛けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整については、柔軟に対応できるよう心掛けている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1週間に1度併設特養に出向き、共にレクリエーションや健康体操等を実施、交流の場をもつことで他職員とも関わりをもつようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年年度初めに研修計画を作成。 施設内外問わず、研修への積極的な参加、出張復命の場を提供し、職員の育成に努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島内におけるGHケア研究会に参加し、他事業所との交流の場の提供、サービスの質の向上への取り組みを実施。 また、施設外研修における他事業所とのネットワークの構築に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の意見を聞き入れるよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の勤務体制の中で、職員との会話の機会を創出し、志を高くもつことができるよう、全体会議等にて対応している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者あつての施設であるという認識の下、信頼関係の構築に努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会等の際に会話を実施するように心掛けている。季節ごとに発行する広報紙にも個々の方々のコメントを入れさせて頂き、御家族への報告、信頼関係の構築・相談等を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様(ご本人)と御家族様との会話を重要視し、他サービスも視野に入れ、柔軟に対応させて頂くような対応を心掛けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様にとって十分に納得されるまでご検討頂き、相談を重ねながら利用をして頂くよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉掛けや対応を行い、共に支え合う関係の構築に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の意見には常に耳を傾け、共に支え合う関係の構築に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人・御家族と共に話し合いをもち、常に良い関係を築くことができるよう心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等の希望があった際は支援を実施し、できる限りの交流、関係継続の支援を実施している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の状態を観察し、会話の促進等が日常的にできるような支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された際等において、時々病院まで伺う等実施している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の立場に立って、会話をし希望・意向を汲み取ることができればと心掛けている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用前の担当ケアマネより情報の収集、御本人・御家族と話をすることで、今までの暮らしや生活等について把握をしよう努めている。 また、日常の会話から気付きに心掛けるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自立支援を念頭に、利用者様一人ひとりと共に庭や畑等の環境づくりや趣味・リハビリ等を実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様個々の特性を基に、特徴に基づいた利用者主体の介護計画作成に取り組んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様一人ひとりの特性を見極め、アセスメントを実施し、個々の課題を明らかにするよう取り組んでいる。また、今後も家族との関係を重視し、意見を充分に取り入れ課題に取り組むよう心掛ける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりに合った役割をもって頂き、毎日実施確認表を記載している。 また、個別記録・申し送り帳に毎日の状態の変化等を記入し、情報の共有を行い見直し等を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じた対応を心掛けている。 併設特養にて機能訓練を希望される方には、その都度柔軟に対応をさせて頂いている。		買物、外食、併設特養も含めた健康体操等を実施している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	様々な行事等に個人ボランティアの方々が参加をされ、共に協力しながら支援を実施している。 民生委員の方々からは助言等を頂いている。		今後はさらに協力を仰ぎながら、共に支援できるような体制を築きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じた対応を心掛けている。		実現に至ったことはない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設するうんげんの里ケアプランセンターと様々な情報交換の連携を図り、地域包括支援センターとも連携を図ることとしている。		現実的に共に活動するまでは至っていない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院・協力歯科医院以外で御家族が受診を希望された際は、希望される医療機関にて受診をして頂くよう柔軟に対応し、連携を図っている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医師から指示・助言を頂くよう対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養の看護師・嘱託医師等にて随時相談を実施し、支援を実施している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院と定期的な話し合いをもつことで、連携を図るよう実施している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取指針を作成、御本人ご家族等との話し合いを実施し、同意書にて方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取指針を作成し、全体で重度化や終末期に向けた取り組みを実施している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間で十分な話し合いをもち、情報交換等を実施し、住み替えによる影響を最小限に防ぐことを心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報について施設内研修を実施、個人情報に関する指針を策定し、一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応を実施している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様の自己決定を最大限尊重し、雰囲気づくり等配慮しながら、働き掛けを実施している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者個々人の希望をしっかりと受け止め、その日の様子・状態等を見ながら、対応するよう心掛けている。</p>	<p>お茶の際もお声掛けを実施し、無理強いせず御本人に合わせた対応を行っている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自ら衣類を着用される為、季節とかけ離れた服装の場合は声掛けを行い着替えて頂いていたりもしている。できるだけ個性を重視した支援を実施している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に食事を摂取して頂き、常時お声掛けを行い、利用者・職員共に楽しく食事を実施し、片付けも実施している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食事は楽しく食べられるよう、職員一同心掛けている。また、テレビは誰も見ていない時は消している。また、職員も一緒に食事を摂取し、些細なことでもサポートできる体制を心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常時おむつをされている利用者様はおられない。今後も可能な限り、自立に向けたトイレ誘導を実施していくよう支援することとする。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の希望に合わせた入浴を行うよう心掛けている。入浴の時間帯は主に午前中に実施し、バイタル測定を含め、その日の状態観察を行った後の入浴促しに努めている。		利用者様に希望を問うも、午前中でよいとの回答有。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりに合わせた休息を考え、安眠パターンを把握し、睡眠剤を服用することなく安眠策を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様一人ひとりに合った役割をつくり、楽しみや出番を見い出すような場面づくりを支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個々の状態を把握し、御家族とも協議を重ねた上で、利用者様のご希望に沿うことができるよう支援を実施している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	申し出がある際は、気分転換も兼ね付き添いながら買い物等に出掛けるよう支援している。今後更に多くの機会を作るよう支援していきたい。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の方々と連絡を取り合いながら、できるだけ希望に添えるよう実施支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様ご本人の希望時には電話・手紙等の実施・支援を行っている。 また、月1回送付のホーム便りに御家族に対し、御本人様の状態・行事等を報告し、支援を実施している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間内はいつでも気軽に訪問できるよう説明を実施し、居心地良く過ごすことができるよう工夫を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対応マニュアルの基、施設内研修によって全職員に理解が広がっていると思われる。		身体拘束を実施しないことを目標とするのではなく、身体拘束廃止に至る経緯を学び、全職員の意識の向上に努めている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様の自由な暮らしを支え、心理的圧迫をもたらすことがないように、日中は玄関に鍵をかけない工夫を実施している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の安全においては昼夜共に把握。夜間は巡視観察を実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険かつ利用者様に間違いがあると想定される、薬・刃物類については所定の場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があった際、事故報告書を作成し、職員間で話し合いを実施している。また、検討・改善事項を今後活かすとともに、再発防止、サービスの更なる発展に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設特養の看護師にて作成された緊急事態の対応マニュアルがあり、実技指導も実施し全職員が熟知しているが、定期的な訓練の実施までは至っていない。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練マニュアル等を基に、避難訓練を年間2度実施している。昨年は雲仙市の他事業所も参観した上で訓練を実施、地域の方々の協力を得ることができるよう働きかけを心掛けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様一人ひとりに起こりうるかもしれない事故等リスクに関して御家族に説明を実施、看取看護も含め同意書を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者様一人ひとりの体調の目安として、毎朝バイタルチェックを実施している。 また、変化等あった際は、併設看護師への報告、その後の判断により御家族への連絡等対応を実施している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は特に重要事項でもあるので、嘱託医師や併設看護師の指導の下に支援している。 また、薬一つひとつの詳細な内容等を職員室に貼り付け、把握に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便が無い場合は運動・腹部マッサージ・水分等の飲水に心掛けている。また、併設特養の看護師に状態報告し、指示を仰ぐ場合もある。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、イソジンを使用した毎日のうがいを実施し、日常的な口腔ケアを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の栄養士と相談し実施している。 おおよそ1日当たり1300～1600kcalの摂取を心掛けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを基本にうがい・手洗い等、対応・実施しており、併設特養の看護師・嘱託医師にも予防・対応策を聞くことから実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の業務の上で食材の管理等においては、充分点検し管理に努めている。 また、常に衛生・消毒等にも配慮し、うがい・手洗い等の励行に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花壇をつくり、季節の花々も植え、親しみのある木製の手作り看板にて表示をしている。また、庭先には利用者が充分能力を発揮できるような畑が存在する。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口の木製の表札により、親しみやすい柔らかいイメージで、利用者の方々にも馴染みやすいと思われる。 また、利用者様に対する配慮として、ゆったりした、あたたかい穏やかな環境をつくるよう心掛けている。また、その場の雰囲気に合わせて調整も実施している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全でできるだけ自立した生活を送ることができることを考慮し、ソファの位置等、環境設備の工夫を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族とも相談し、ご本人が使い慣れたもの好みのものに応じて、利用者様が居心地良く過ごして頂けるような試みを実施している。また、御家族に対しても持込みをお願いしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適宜実施し、ホーム内の空気に淀みがないよう心掛けている。室内の温度調節も、外気温との差を大きくしないような気配りを実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行不安定な利用者の方々の転倒予防に努める為、共有空間の整理整頓を心掛けている。また、廊下には観葉植物による緑があることで、癒し効果が幾分かあると思われる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	言葉掛けを細部に渡るまで注意し、役割の達成や活躍の場面づくりの創出を心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りに草木を植え畑を作り、利用者様が自由に手入れができる環境づくり。また、草むしり等も職員が見守れる中で行え、日々利用者様がが楽しく活動できるように心掛けている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

庭にある畑の利用や広大な敷地内での散策等、日常生活の中で様々な会話を通して利用者個々の思いを受け止め、不安を除去し安全で安心した生活を過ごして頂けるよう心掛けています。

利用者様及び御家族との信頼関係の構築を大切に、その日の状況等を把握した上で、日々の業務を推進し、少しでも利用者様のご希望に沿うことができるよう心掛けながら対応・支援等を実施しています。

今後は今よりも更に地域に開かれた施設として、併設特養と合同での様々な行事やイベント等の開催、そして施設外行事等への参加を促し、地域に愛されるような施設づくりを目指していきたくと考えております。